

V. 1. 教員の教育研究・社会貢献活動

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(1) 言語文化専攻

【言語文化比較交流論講座】

小門 典夫 (KOKADO Norio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーション演習(中国語)、中国語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉機械翻訳ソフトの開発

小杉 世 (KOSUGI Sei) 准教授

<https://sites.google.com/site/seikosugi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化変容論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉言語文化比較交流論 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語圏文学、オセアニアの先住民/移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉日本英文学会(日本英文学会関西支部)、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、オーストラリア学会、ASLE-Japan(文学・環境学会)、エコクリティシズム研究学会、日本文化人類学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、NZSA(New Zealand Studies Association, UK)、国際演劇協会(ITI)

[研究業績]

〈論文〉

・「Lemi Ponifasio の القدس Jerusalem——境界線と壁を越えて——」『言語文化共同研究プロジェクト2019: Cultural Formation StudiesII』大阪大学大学院言語文化研究科、2020年7月、pp.73-84. DOI: 10.18910/77003.

〈書評・論評・紹介〉

・「書評 Elizabeth M. DeLoughrey, *Allegories of the Anthropocene* (Duke University Press, 2019)」『ヴァージニア・ウルフ研究』37号、日本ヴァージニア・ウルフ協会、2020年12月、pp.150-155. (依頼原稿)

・「英語のメディア授業——試行錯誤の半年間」『サイバーメディア・フォーラム』No.21、大阪大学サバーメディアセンター、2020年11月、pp.21-26. (依頼原稿)

〈メディア報道〉

・能智春花「太平洋の島国 キリバスの国連大使に聞く 核兵器禁止条約の意義」NHK News Web、日本放送協会、2021年1月26日 (<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210126/k10012832111000.html>) (取材協力: 写真・情報提供)

・Nochi Haruka, 'Kiribati's Nuclear Past Inspires Support for Treaty' NHK World Japan, Backstories, NHK, 26 January 2021 (<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/backstories/1479/>) (取材協力: 写真・情報提供)

・'Kiribati's Nuclear Past Inspires Support for Treaty' (Reporter: Nochi Haruka), NHK World Newline, 日本放送協会、2021年1月22日放送 (取材協力: 写真・情報提供)

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) 2020 年度～2023 年度「環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究」(研究代表者：松永京子) 研究分担者

[その他の活動]

〈共同研究〉

・国立民族学博物館共同研究員(研究課題：オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究、研究代表者：風間計博)

〈管理運営〉学生支援委員会委員、新専攻検討 WG オブザーバー、阪なり会豊中地区世話人

〈学会活動〉オーストラリア・ニュージーランド文学会理事・編集委員、NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member、ISLE-EA2021 (The Seventh International Symposium on Literature and Environment, East Asia) 企画実行委員

里内 克巳 (SATOUCHI Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、実践英語 (再履修用)

〈学部教育担当科目〉言語文化比較交流論 C・D (外国語学部)

[研究活動]

〈研究テーマ〉19-20 世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝 (life narrative) 研究

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、京大英文学会、日本ウィリアム・フォークナー協会

[研究業績]

〈共著〉

・青木耕平、加藤有佳織、佐々木楓、里内克巳、日野原慶、藤井光、矢倉喬士、吉田恭子共著『現代アメリカ文学ポップコーン大盛』(書肆侃侃房) 2020 年 12 月

〈論文〉

・「川で起きた悲劇——マーク・トウェインは蒸気船事故をどう描いたか」日本ウィリアム・フォークナー協会編『フォークナー』(松柏社) 第 22 号 (2020 年 7 月) pp.34-51. (2020 年 3 月に『言語文化研究』46 号に発表した同題の論文の短縮版)

・「〈妥協の人〉の自画像——ブッカー・T・ワシントン『奴隷より身を起こして』における順応と抵抗」『言語文化研究』47 号 (2021 年 3 月) pp.67-88.

〈翻訳書〉

・マーク・トウェイン著、里内克巳訳・解説『〈連載版〉マーク・トウェイン自伝』(彩流社) 2020 年 5 月

〈書評・論評・紹介〉

・光森幸子著『「弱きもの」から抵抗者への変容——アリス・ウォーカーの長編小説を読み解く』(溪水社、2019 年) 短評 『アメリカ文学研究』57 号 (2021 年 3 月) pp.121-22.

〈口頭発表・学会報告〉

・シンポジウム「fragile なアメリカ文学」講師 日本英文学会第 92 回大会 (ウェブカンファレンス) 2020 年 7 月 6 日～7 月 15 日

・「この男、ブラウン」——Mark Twain, *Letters from Hawaii* における〈もう一人の自分〉の役割」日本英文学会関西支部第 14 回大会 Proceedings (オンライン・2020 年 8 月 2 日公開)

http://124.146.197.139/app-def/S-102/kansai2/wp-content/uploads/2020/07/satouchi_katsumi1.pdf

・シンポジウム「マーク・トウェインをめぐる〈二次創作的想像力〉」講師 日本マーク・トウェイン協会第24回全国大会（オンライン開催） 2020年11月7日

〔研究助成〕

・基盤研究C「罪悪感の文学——マーク・トウェイン小説作品の自伝的基盤を探る」（2016年4月～2022年3月）研究課題番号16K02490

〔その他の活動〕

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター言語教育推進部長（カリキュラム委員長）、教育課程委員会委員

〈学会活動〉日本マーク・トウェイン協会会長、日本アメリカ文学会関西支部副支部長、日本アメリカ文学会代議員、日本アメリカ文学会編集委員（代議員選出）、日本英文学会関西支部理事

田中 智行 (TANAKA Tomoyuki) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国の古典白話小説

〈所属学会〉日本中国学会、東方学会、中国人文学会

〔研究業績〕

〔論文〕

・Filtration or Remolding: The Role of the Translator as an Intentional Mediator, 『翻訳界』第10輯、2020年11月、pp.138-146

・田中智行、任清梅「《金瓶梅》の魅力——日本漢学家、《金瓶梅》訳者田中智行先生訪談録」『翻訳界』第11輯、2020年11月、pp.189-199

〔書評・論評・紹介〕

・「古典研究の公と私——書評：川島優子『《金瓶梅》の構想とその受容』」『言語文化の比較と交流7』（大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト2019）、2020年7月、pp.70-71

〔口頭発表・講演・学会報告〕

・「《金瓶梅》第三十九回の結構」第十六届（上海）国際《金瓶梅》学術研討会、復旦大学、2020年10月31日（オンライン開催）

〔研究助成〕

・科研費若手研究B「『金瓶梅詞話』新訳のための基礎研究」研究課題番号17K13432

〔その他の活動〕

〈管理運営〉大阪大学言語文化学会委員長

西村 謙一 (NISHIMURA Kenichi) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉言語文化政策論A・B

〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究

〈所属学会〉日本国際政治学会、日本平和学会、日本比較政治学会、アジア政経学会、日本政治学会

〔研究業績〕

〔論文〕

・西村謙一「地方自治体の政策パフォーマンスに対する住民参加の効果——フィリピンを例として——」『阪大法

学』第70巻第6号、pp.67-101。

・西村謙一、小林盾、菊地端夫、永井史男「2019年フィリピンの地方自治意識調査(1)」『法学雑誌』67巻3号、pp.1-29。

・西村謙一、小林盾、菊地端夫、永井史男「2019年フィリピンの地方自治意識調査(2)」『法学雑誌』67巻4号、pp.1-26。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・西村謙一「住民参加は自治体パフォーマンスにいかなる影響を与えるのか——フィリピンを例にして」日本国際政治学会2020年度研究大会、2020年10月23日

・西村謙一、永井史男、籠谷和弘、小林盾、菊地端夫、岡本正明「インドネシアおよびフィリピンの地方自治に関する住民意識の分析」京都大学東南アジア地域研究研究所、共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」令和2年度研究成果報告、2021年2月17日

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(B)令和2年度～令和5年度「東南アジア地方自治ガバナンスと住民意識の分析——インドネシア、フィリピンの比較」研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究(B)平成31年度～令和4年度「政策波及の政治的動態と中央地方関係——タイ、フィリピン、インドネシアの比較」(研究代表者:永井史男・大阪市立大学教授)、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉男女協働推進センター会議委員

〈社会貢献活動〉兵庫県立高等学校評議員

平山 晃司 (HIRAYAMA Koji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論A・B

〈共通教育担当科目〉ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉西洋古典学、古代ギリシアの宗教、古代法の宗教性に関する研究

〈所属学会〉日本西洋古典学会

[その他の活動]

〈管理運営〉紀要編集委員会委員長、人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員、図書委員会委員、附属図書館総合図書館運営委員会委員

三浦 あゆみ (MIURA Ayumi) 准教授

<https://sites.google.com/site/helontheweb/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉比較言語文化論A・B(=学部方法論科目「言語文化比較交流論(E)・(K)」)

〈共通教育担当科目〉総合英語(Academic Skills)、総合英語(Content-based English)、英語選択

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史(特に古英語・中英語)、史的統語論、(史的)語彙意味論、(史的)辞書学

〈所属学会〉岩崎研究会、英語史研究会、近代英語協会、日本英文学会(関西支部)、日本中世英語英文学会(西支部)、Angus McIntosh Centre for Historical Linguistics、ISLE(International Society for the Linguistics of English)

[研究業績]

〈論文〉

・‘Some lexical and syntactic comparisons between the fifteenth-century *An Alphabet of Tales* and the Latin source *Alphabetum Narrationum*’『言語文化の比較と交流7』(大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジ

エクト 2019) pp. 19-30.

・「学術的出版物に見る中英語の精読の重要性」 *Studies in Medieval English Language and Literature* (日本中世英語英文学会) 35, 37-44.

・「Revisiting the Latin influence on Middle English interrogative *who of* in Rodrigo Pérez Lorigo, Carlos Prado Alonso & Paula Rodríguez-Puente (eds.), *Of ye Olde English Langage and Textes: New Perspectives on Old and Middle English Language and Literature* (Peter Lang), pp. 259-279. DOI: 10.3726/b16935

・「Emendation of *he þis* in *York Plays XXX 112*」 *Notes and Queries* 67.3, 350-351. DOI: 10.1093/notesj/gjaa084
(口頭発表・講演・学会報告)

・「アカデミック・スキルを英語で学ぶ／教え（てみ）る」大阪大学大学院言語文化研究科英語部会主催 FD ワークショップ「総合英語 (Academic Skills) 授業実践報告」 (2021 年 3 月 25 日)
(研究助成)

・科研費若手研究「*An Alphabet of Tales* におけるラテン語原典語彙・文法の受容」(研究代表者、課題番号 19K13222、2019～2021 年度)

(受賞)

・第 17 回 (令和 2 (2020) 年度) 日本学術振興会賞 (2020 年 12 月)

・第 17 回 (令和 2 年度) 日本学士院学術奨励賞 (2021 年 1 月)

・大阪大学総長特別表彰 (2021 年 3 月)

[その他の活動]

(学会活動) 日本中世英語英文学会評議員

ヨコタ村上 孝之 (YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami>

[教育活動]

(研究科担当科目) 比較言語文化交流論

(共通教育担当科目) ロシア語初級、ロシア語上級、

(学部教育担当科目) 文学概論

[研究活動]

(研究テーマ) 比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究

(所属学会) 日本比較文学会、日本ロシア文学会、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、MLA, AAS, ENCLS,

ICLA, EAJS

[研究業績]

(単著・編著書・共著)

「現代日本文学におけるバイリンガリズムについて——『国語』の真の脱構築に向けて」『中央アジアと日本における文化的・社会的多元性と共生』タシケント国立東洋学大学 2020 年 600—609 頁

“*Iaponskie perevody russkoi literatury XIX veka: Problema retseptii inokul'turnoi seksual'noi ideologii* (19 世紀ロシア文学の日本語訳——異文化の性的イデオロギー受容の問題).” *Russkii iazyk, literature i kul'tura v prostranstve ATR* (アジア環太平洋諸国のロシア語ロシア文化). ウラジオストク 極東連邦大学出版社 2020 年 213-218 頁

(論文)

“The Historically Changing Notion of (Female Bodily) Proportion and Its Relevance to Literature.” *Perichoresis* (The Theological Journal of Emanuel University) 18: 2 (Summer 2020): 17-30. (Peer-reviewed)

[その他の活動]

(管理運営)

(学会活動) 国際比較文学会理事、日本ロシア文学会理事・学会賞選考委員長・大会実行委員長、日本ロシア東欧学会理事・学会賞選考委員・会誌副編集長、比較文学会関西支部幹事

【言語文化システム論講座】

小川 敦 (OGAWA Atsushi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化システム論 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、ドイツ語言語文化演習（中級継続）

〈外国語学部担当科目〉（学部方法論科目）文化概論（A）

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語圏の言語政策、ルクセンブルクにおける移民の言語的人権をめぐる言語教育政策

〈所属学会〉日本独文学会、日本言語政策学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈共著〉

・小川敦（2020）「ルクセンブルク」、石田勇治・佐藤公紀・柳原伸洋・木村洋平・宮崎麻子（編著）『ドイツ文化事典』、丸善出版、8-9頁。

〈論文〉

・OGAWA, Atsushi (2020) Die Wahl der Schriftsprache im öffentlich-administrativen Bereich im mehrsprachigen Luxemburg. Der Sprachgebrauch in Gemeindeblättern der kleineren Gemeinden, 大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト2019 批判的社会言語学の探訪』, pp. 17-27.

・小川敦（2021）「多言語社会ルクセンブルクにおける言語イデオロギーの「対抗」」、柿原武史・仲潔・布尾勝一郎・山下仁（編著）『対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く』、三元社、37-66頁。

〈その他〉

・小川敦（2021）「欧州言語共通参照枠（CEFR）と複言語主義」、柿原武史・仲潔・布尾勝一郎・山下仁（編著）『対抗する言語 日常生活に潜む言語の危うさを暴く』、三元社、67-69頁。

・小門穂・熊谷哲哉・小川敦「ドイツ×フランスお隣どうし ― 比較で学ぶことばと文化 ―」、『ふらんす』、白水社、2021年2月号。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・小川敦「多言語社会ルクセンブルクにおける移民背景を持つ子へのドイツ語教育と課題」、阪神ドイツ文学会 第233回研究発表会（2020年12月12日）シンポジウム「ウェルフェア・リングイスティクスと外国語教育——教育におけるインクルージョンはどうあるべきか」

〈研究助成〉

・科学研究費補助金（基盤(C)）「ルクセンブルクにおける移民の子弟への識字教育支援—社会経済的不平等の解消のために」（2017-2020年）研究代表者

・科学研究費補助金（基盤(B)）「自治体移民言語政策と言語認識に関する国際比較研究」（2018-2021年）研究分担者（研究代表者・塚原信行（京都大学））

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科ネットワーク委員、同コンテンツ委員、学生支援委員

〈学会活動〉日本独文学会ドイツ語学ゼミナール実行委員、同データベース委員、同ハラスメント対策ワーキンググループ

霜島 慶邦 (SHIMOTORI Yoshikuni) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化理論研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 21 世紀英語圏文学・文化における第一次世界大戦の記憶

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、The Siegfried Sassoon Fellowship、The Wilfred Owen Association

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・霜鳥慶邦『百年の記憶と未来への松明：二十一世紀英語圏文学・文化と第一次世界大戦の記憶』松柏社、2020 年。

〈研究助成〉

・科研費基盤研究 (C) 「第一次世界大戦終結 100 周年のために：21 世紀英語文学と他者の記憶／記憶の他者」

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員長

津田 保夫 (TSUDA Yasuo) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 文化分析方法論 A・B、言語文化システム論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 18 世紀ドイツ文学、村上春樹の小説

〈所属学会〉 日本独文学会、日本ヘルダー学会、日本ゲーテ協会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈論文〉

・「村上春樹の『騎士団長殺し』におけるアイデアとメタファー」 (言語文化共同研究プロジェクト 2019 『「文化」の解読 (20)』 2020 年 7 月)

[その他の活動]

〈管理運営〉 ドイツ語部会主任

〈学会活動〉 日本ヘルダー学会理事

林 千宏 (HAYASHI Chihiro) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 文化分析方法論 A・B

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級

〈学部教育担当科目〉 フランス文学IV講義 (フランス文学作品研究講義、フランス文学作品研究特殊講義)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 16 世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサル学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

[研究業績]

〈共著〉

・『実用フランス語技能検定試験 2020 年度版 3 級・4 級・5 級 仏検公式ガイドブック』

〈論文〉

・「エピグラムからソネへ—ロンサル『恋愛詩集』 (1552) を中心に」 『表象と文化 XVII』 (言語文化共同

研究プロジェクト 2019)、p. 23-34

〈書評・論評・紹介〉

・連載エッセイ「仏検4級対策 らくらく初級マスター講座」(『ふらんす』白水社)

第11回「仏検3級受験にむけて—動詞の活用・法について」p. 22-24, 1月

最終回「仏検3級、そしてその次を目指すために—聞き取り問題について」p. 22-24, 2月

・「ディクテで不安を解消！」(『ふらんす』白水社) p. 13-18, 4月

〈研究助成〉

・科研費若手「フランス・ルネサンス文学における芸術作品の解釈・鑑賞行為の表象」(T1812342)

・科研費基盤(B)「初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想: 美術と修辞学の創造的共同」(研究代表者 桑木野幸司) 研究分担者

[その他の活動]

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会編集委員、同学会語学教育委員、日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員、日本フランス語フランス文学会関西支部会実行委員

〈社会貢献活動〉文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員、放送大学大阪学習センター面接授業講師(「フランス語初級」)

福田 覚 (FUKUTA Satoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化理論研究A・B、言語文化システム論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級I・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習(ドイツ語)、ドイツ語言語文化演習(中級継続)

〈学部教育担当科目〉言語文化システム論C・D

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語圏の詩学史・思想史・文学

〈所属学会〉日本独文学会、同京都支部会、日本18世紀学会

[研究業績]

〈論文〉

・「文学論争におけるクロープシュトックの評価—文学論争の再考にむけて」『ドイツ啓蒙主義研究17』(大阪大学大学院言語文化研究科、2020年7月31日) S.1-10

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化システム論講座代表

森 祐司 (MORI Yuji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉公共文化形成論A・B、言語文化システム論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語、実践英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉アウトドア言語文化研究

〈所属学会〉大阪大学言語文化学会

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター長

我田 広之 (WAGATA Hiroyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 公共文化形成論、言語文化システム論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語初級・中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ドイツ思想史、ドイツ文化史

〈所属学会〉 日本ドイツ学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

【現代超域文化論講座】

伊勢 芳夫 (ISE Yoshio) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 現代超域文化論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 19世紀英国植民地小説と日本植民地小説、及び、イギリス、インド、そして日本の近代化の知の考古学的比較研究

〈所属学会〉 日本キプリング協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『プロジェクト2019 Cultural Formation Studies (2)』 (言語文化研究科、2020年5月)

[研究助成]

・2020-2022年度科学研究費補助金・基盤研究(C) (研究代表者) 「『近代』の反復と多様性——「東と西」の知の考古学的解体に関する研究」 (研究課題：20K00388)

[調査活動]

・イギリス領インドにおける植民地政策、及びイギリス人によるインド表象の構築と、日本の近代化と植民地政策に関する資料収集・分析

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科言語文化専攻長、教育研究評議員

〈学会活動〉 日本英文学会関西支部評議員、日本キプリング協会会長

北井 聡子 (KITAI Satoko) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ジェンダー論 A・B

〈共通教育担当科目〉 ロシア語 初級Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーション演習 (ロシア語)、ロシア語中級、ロシア語中級選択

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ロシア・ソ連文化におけるジェンダー/セクシュアリティ表象

〈所属学会〉 日本ロシア文学会

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

・書評 越野剛・高山陽子編著『紅い戦争のメモリースケープ—旧ソ連・東欧・中国・ベトナム』『ロシア語ロシア文学研究』第52号、2020年、173-183頁。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・北井聡子「セルゲイ・トレチヤコフ『子供が欲しい』における女の欲望」、オンライン・シンポジウム「境界を超えるロシア」2021年3月21日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター主催。

〈研究助成〉

・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター2020年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」プロジェクト型共同研究「19世紀末～20世紀ロシアにおける近代の超克・超越性を中心に」
研究代表者：北井聡子

・日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究、2020年4月 - 2024年3月「1920年代～30年代ソ連文化におけるジェンダー表象」

[その他の活動]

〈学会活動〉

・日本ロシア文学会 第70回大会 大阪大学・オンライン開催 2020年10月31日-11月1日、大会実行委員
・日本ロシア文学会 国際交流委員
・オンライン・シンポジウム「境界を超えるロシア」2021年3月21日、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター主催、企画・代表者

木原 善彦 (KIHARA Yoshihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代超域文化論 A・B、現代超域文化論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代英語圏文学、文体論

〈所属学会〉日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

・デイヴィッド・マークソン『ウィトゲンシュタインの愛人』国書刊行会（2020年7月）

・アザリーン・ヴァンデアフリートオールミ『私はゼブラ』白水社（2020年9月）

〈書評・論評・紹介〉

・円城塔『文字渦』新潮文庫（2021年1月）巻末解説

・アンナ・バーンズ『ミルクマン』（榎木玲子訳、河出書房新社、2020年）新聞書評（時事通信社、2021年1月12日配信）

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「カルチャーキュレーターとしてのオバマ元大統領特集」でオバマ氏のお薦め本について解説（「アフター6ジャンクション」3月3日 20:00-20:50 放送、TBS ラジオ）

[その他の活動]

〈管理運営〉全学人権問題委員会委員、英語部会主任

〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部編集幹事、日本アメリカ文学会関西支部運営委員

中村 綾乃 (NAKAMURA Ayano) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代超域文化論 A

〈共通教育担当科目〉学問への扉、ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉東アジアとドイツ関係史、ドイツ帝国の南洋統治と日本の植民地政策、ヴィルヘルム・ゾルフ

〈所属学会〉日本西洋史学会、日本ドイツ学会、阪神独文学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・石田勇治（編集代表）、佐藤公紀（編集幹事）、柳原伸洋（編集幹事）、宮崎麻子（編集委員）、木村洋平（編集委員）『ドイツ文化事典』（項目執筆：中村綾乃「神戸とドイツ人——異人館の風見鶏——」（丸善出版、2020年10月）

〈書評・論評・紹介〉

・書評 中村綾乃「清水雅大著『文化の枢軸——戦前日本の文化外交とナチ・ドイツ——』」『西洋史学論集』第58号（九州西洋史学会、2021年）

〈研究助成〉

・科学研究費補助金（基盤C）研究課題「ドイツ帝国の南洋統治と日本の植民地政策」（課題番号：20K01502）

宮崎 麻子 (MIYAZAKI Asako) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉現代超域文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉（詩を読む）

〈学部教育担当科目〉外国語学部 現代超域文化論（C・D）

[研究活動]

〈研究テーマ〉東ドイツ文学・文化研究、現代ドイツにおける想起の文学の研究、姉妹をめぐる比較文学研究

〈所属学会〉日本独文学会、日本ドイツ学会、阪神ドイツ文学会

[研究業績]

〈共編著書〉

・石田勇治（編集代表）、佐藤公紀（編集幹事）、柳原伸洋（編集幹事）、宮崎麻子（編集委員）、木村洋平（編集委員）『ドイツ文化事典』丸善出版、2020年10月。（担当：編集委員ならびに、下記4項目の執筆「ブロッケン山」「ホロコーストと文学」「東ドイツ文学と検閲」「東ドイツ崩壊後の文学」）

〈論文〉

・宮崎麻子「文学における東ドイツの想起の語り アイデンティティの政治とは別のところへ」日本ドイツ学会「ドイツ研究」55号、2021年、22-30頁。

〈書評・論評・紹介〉

・宮崎麻子「ベリーのジュースを飲むときに思い出すこと」（シュタインベルグ先生特集号寄稿エッセイ）『ゲルマニア（東京外国語大学）』23号、2020年5月、45-48頁。

・石田勇治、柳原伸洋、宮崎麻子「鼎談 『事典』を超えるために」図書新聞3480号、2021年1月23日、1-2頁。

・宮崎麻子「姉妹となった『若草物語』と『海街diary』」APIED、37号、34-36頁。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・宮崎麻子「文学における東ドイツの想起の語り — アイデンティティの政治とは別のところへ」日本ドイツ学会シンポジウム 東ドイツの長い影：東西ドイツ統一から30年、2020年6月21日。

〈研究助成〉

・宮崎麻子、科研費：若手研究、姉妹をめぐる文学の言説——ドイツ語と日本語の文学を中心に（継続）

山本 佳樹 (YAMAMOTO Yoshiki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化メディア論A・B、現代超域文化論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級I・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉

〈学部教育担当科目〉現代超域文化論E・F

[研究活動]

〈研究テーマ〉映画学、ドイツ文化

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、日本オーストリア文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・石田勇治（編集代表）、佐藤公紀（編集幹事）、柳原伸洋（編集幹事）、宮崎麻子（編集委員）、木村洋平（編集委員）『ドイツ文化事典』（項目執筆：山本佳樹「プロパガンダ映画」「『エーミールと探偵たち』とケストナー」「ドイツ＝トルコ映画」）丸善出版、2020年10月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・山本佳樹「初期満映とドイツ映画—雑誌『満洲映画』をてがかりに」第2回表象文化論学会オンライン研究フォーラム2020プログラム、2020年12月20日

[その他の活動]

〈管理運営〉現代超域文化論講座講座主任

〈学会活動〉日本映画学会顧問、日本独文学会支部選出理事、阪神ドイツ文学会幹事

渡辺 貴規子 (WATANABE Kimiko) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス児童文学、日仏比較文学、翻訳児童文学

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本比較文学会、日本児童文学学会、International Research Society for Children's Literature

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

・「Review —原作『家なき子』に込められた思いを受け継ぐレミの美しい歌声」、映画「家なき子 希望の歌声」パンフレット、2020年11月20日

・「私の受賞研究について（現役生・修了生2019年度受賞研究から）」『総人・人環フォーラム』第39号（京都大学大学院人間・環境学研究科）、2021年2月、印刷中

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「エクトール・マロ『家なき子』における児童教育—「独学者」の表象を中心に」、大阪大学フランス語フランス文学研究会、大阪大学、2021年3月6日

[その他の活動]

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会語学教育委員

【言語コミュニケーション論講座】

植田 晃次 (UEDA Kozi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究 A・B（副題：社会言語学、あるいは社会言語学研究の諸問題）、言語コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級 I・II、朝鮮語中級、国際コミュニケーション演習（朝鮮語）、地域言語文化演習（朝鮮語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策
〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会、韓国社会言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・「銀行員・弓場重栄と朝鮮語—日本近代朝鮮語教育史の視点から—」『言語文化研究』47、大阪大学大学院言語文化研究科、2021.3、3-24 頁

・「(研究ノート) 朝鮮語テキストの日本語表記法の記述小攷—規範と言語事実のはざまの風景—」『批判的社会言語学の探訪(言語文化共同研究プロジェクト2019)』大阪大学大学院言語文化研究科、2020.7、43-54 頁
〈研究助成〉

・2018～2020 年度：科学研究費補助金基盤研究(C)「『旧朝鮮語学』の視点から見た日本近代朝鮮語教育史の総合的研究」(研究課題番号：18K00782、研究代表者)

・2017～2019 年度(2020 年度まで延長)：科学研究費補助金基盤研究(C)「漢字文化を基礎とした中期朝鮮語文法および語彙表の開発」(研究課題番号：17K02962、研究分担者)

・2019～2021 年度(予定)：科学研究費補助金基盤研究(B)「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—」(研究課題番号：19H01282、研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉

・マルチリンガル教育センター：派遣教員(マルチリンガル教育開発副オフィス長)、(学内)ファカルティ・ディベロップメント委員会委員

・言語文化研究科：(学内)部局過半数代表者・豊中地区諮問委員会委員、(部内)〈部会選出〉朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計・マルチメディア外国語教育・紀要編集・カリキュラムの各委員会、および、カリキュラム小委員会の委員、〈講座選出〉言語コミュニケーション論講座講座代表者、講座代表者会議委員、計画・評価委員会委員、入試委員会委員、公開講座検討WGメンバー

〈学会活動〉朝鮮学会幹事(2020年4月～)、東アジア日本学研究会理事(2018年10月～)

榎本 剛士 (ENOMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語(Content-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉語用論、記号論、教育言語人類学、実践論・出来事論としての言語研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究、言語人類学の枠組みを援用した近現代日本の英語教育研究

〈所属学会〉社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Pragmatics Association

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『よくわかる英語教育学』鳥飼玖美子・鈴木希明・綾部保志・榎本剛士(編著)、ミネルヴァ書房、2021年2月

〈論文〉

・「対抗するための言葉としての『コミュニケーション』：英語教育の現場から」柿原武史・仲潔・布尾勝一郎・山下仁(編著)『対抗する言語：日常生活に潜む言語の危うさを暴く』(275-299頁)、三元社、2021年1月

・「大学教育への『接続』と『アクセス』の視点から日本の英語教育の問題を考える」『自律した学習者を育てる言語教育の探求⑩：小中高大を接続することばの教育として』研究報告 No. 96、121-133頁、2020年10月

・「メタ言語のメタ語用論：英語授業における対象言語の詩的生成とその社会化効果」『社会言語科学』第23巻第1号、132-146頁、2020年9月

・「日本の英語教育における『多様性』の問題について：“Biocommunicability”概念を援用した準備的考察」『相互行為研究⑥：談話とダイバーシティー 言語文化共同研究プロジェクト2019』、21-30頁、2020年7月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「記号の様態と（コン）テキスト化のポリティクス：日本の中学校英語授業に見る、その不確実性」第2回社会言語科学学会シンポジウム『多声を聴く、他者と生きる：言語から人と経験世界の多様性を問い直す』、2020年9月20日

[その他の活動]

〈管理運営〉学生支援委員会委員、広報・社会貢献検討委員会委員（後期委員長）、ハラスメント部局相談員

〈学会活動〉日本英語教育史学会理事・学会紀要編集委員、社会言語科学学会企画委員会委員

〈社会貢献活動〉公益財団法人中央教育研究所「自律した学習者を育てる言語教育の探求：小中高大を接続することばの教育として」研究プロジェクトメンバー

王 周明 (WANG Zhouming) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語運用理論研究A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語歴史文法、方言文法

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

[研究業績]

〈単著〉

・「《北京官話伊蘇普喻言》的口語性相關問題試探」（『言語文化研究』第47号 pp.25-43、大阪大学大学院言語文化研究科、2021年3月）

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究B（課題番号A19H012820）「異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—」（研究代表者、2019～2021年度）

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科：中国語部会主任・財務会計委員・人権問題委員・キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員長

〈学会活動〉日本中国語学会全国大会運営委員、学術誌（中国語学、言語文化研究）の査読

〈社会貢献活動〉京都大学非常勤講師

大前 智美 (OMAE Tomomi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語技術研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語初級II

[研究活動]

〈研究テーマ〉外国語教育、e-Learning、アクティブラーニング、ICT活用

〈所属学会〉日本独文学会ドイツ語教育部会、e-Learning教育学会、外国語メディア教育学会、コンピュータ利用教育学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・大前智美, 渡邊ゆきこ, 「音声認識機能を使った自律型発音学習」, 『2020 PC Conference 論文集』, p.233~236, 2020年8月
- ・Mehrasa ALIZADEH, Tomomi OMAE, Shizuka SHIRAI, Noriko TAKEMURA, 「Evaluating a Collaborative Learning Card Game for Pre-Intermediate Language Learners in Face-to-Face and Online Settings」, 『e-Learning 教育研究 第15巻』, 2021年3月発行予定
- ・山岡正和, 大前智美, 岩居弘樹, 「「ZOOM+α 相談会」が作る新しい学びの場~「わかる」・「できる」を共有するオンラインワークショップ-」, 『CIEC 春季カンファレンス論文集』, p.45~50, 2021年3月
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・大前智美, 渡邊ゆきこ, 「音声認識機能を使った自律型発音学習」, 2020 PC カンファレンス, 2020年8月20日
- ・岩居弘樹, 大前智美, 「オンライン授業の解説-リアルタイム方式とオンデマンド方式のコツを伝授します!」, 日本独文学会ドイツ語教育部会オンラインイベント, 2020年8月30日
- ・大前智美, 「市民講座「複言語学習のススメ」で耳と口を鍛えよう」, 第2回 JACTFL オンラインシンポジウム, 2020年9月5日
- ・大前智美, 山岡正和, 「Quizizz を使ったオンライン授業の導入」, 外国語教育メディア学会関西支部 2020年度秋季研究大会, 2020年12月19日
- ・山岡正和, 大前智美, 岩居弘樹, 「「Zoom+α 相談会」が作る新しい学びの場-「わかる」・「できる」を共有するオンラインワークショップ」, CIEC 春季カンファレンス 2021, 2021年3月20日
〈研究助成〉
- ・基盤研究 C, 「小中高大連携を見据えた外国語教育と ICT の接点を探る研究ならびにアーカイブの開発」, 研究分担者, 2017年~2019年
[その他の活動]
〈学会活動〉 e-Learning 教育学会理事、事務局、会計、学会誌編集委員
〈社会貢献活動〉 市民講座 2020 複言語学習のススメ

佐藤 彰 (SATO Akira) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 社会言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉 International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・秦かおり・佐藤彰・岡本能里子編『メディアとことば5-政治とメディア』ひつじ書房. 2020年11月.
〈論文〉
- ・「ポスト真実の時代が日本にやってきた-沖縄米軍基地建設抗議運動をレポートした放送のマルチモード分析-」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2019: 相互行為分析⑥-談話とダイバーシティ-』2020年7月, pp. 1-10.
- ・「原発事故を伝える米紙の和訳記事は「大本営発表」だったか-ウォール・ストリート・ジャーナル日本版における原発事故報道の批判的談話分析-」秦かおり・佐藤彰・岡本能里子編『メディアとことば 5-政治とメディア』ひつじ書房. 2020年11月, pp. 174-199.
- ・「仮定の語りにおける語り手のアイデンティティ構築-震災経験をどう語るのか-」秦かおり・村田和代編『ナラティブ研究の可能性-語りが出す社会-』ひつじ書房. 2020年12月, pp. 99-122.

〈書評・論評・紹介〉

・「ニュースの語りと個人的経験の語り」秦かおり・佐藤彰・岡本能里子編『メディアとことば5-政治とメディア』ひつじ書房、2020年11月、200-201.

[その他の活動]

〈管理運営〉紀要編集委員会(英語部会)、国際交流委員会、研究推進委員会(言語コミュニケーション論講座)。
〈学会活動〉メディアとことば研究会役員。

瀧田 恵巳 (TAKITA Emi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論、言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

[研究活動]

〈研究テーマ〉ダイクシス表現を中心とする語用論

〈所属学会〉日本独文学会、九州大学独文学会、西日本独文学会

[研究業績]

〈論文〉

・「『デュランデ城』における風景描写のダイクシス(その3)」『言語文化共同研究プロジェクト2019・時空と認知の言語学IX』pp.1-10. 大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科、2020年7月

[その他の活動]

〈管理運営〉言文学会編集委員、ドイツ語部会会計委員、国際交流委員会委員

秦 かおり (HATA Kaori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B、言語コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語(PB)

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題、移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉社会言語学学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本マス・コミュニケーション学会、カルチュラル・スタディーズ学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『動的語用論の構築へ向けて 第2巻』(田中廣明、吉田悦子、山口征孝氏と共編)開拓社、2020年7月

・“Bonding through Context: Language and interactional alignment in Japanese situated discourse”(Risako Ide氏と共編著) John Benjamins、2020年11月

・『メディアとことば5 特集—政治とメディア』(佐藤彰、岡本能里子氏と共編著)ひつじ書房、2020年11月

・『ナラティブ研究の可能性—語りか写し出す社会』(村田和代氏と共編著)ひつじ書房、2020年12月

〈論文〉

・‘Introduction’(Risako Ide氏と共著)“Bonding through Context: Language and interactional alignment in Japanese situated discourse”(Risako Ide氏と共編著) John Benjamins、2020年11月

・‘Confronting the EU referendum as immigrants: How ‘bonding/un-bonding’ works in narratives of Japanese women living in the UK’(単著)“Bonding through Context: Language and interactional alignment in Japanese situated discourse”(Risako Ide氏と共編著) John Benjamins、2020年11月

- ・「結び直される広島の記事—テレビドキュメンタリーにおける被曝2世・3世のナラティブ分析—」(単著)『メディアとことば5 特集—政治とメディア』(佐藤彰、岡本能里子氏と共編著) ひつじ書房、2020年11月
- ・「語り(ナラティブ)とジェスチャー」(単著)『メディアとことば5 特集—政治とメディア』(佐藤彰、岡本能里子氏と共編著) ひつじ書房、2020年11月
- ・「イントロダクション」(村田和代氏と共著)『ナラティブ研究の可能性—語りが写し出す社会』(村田和代氏と共編著) ひつじ書房、2020年12月
- ・「Brexitを契機に顕在化した排除・調整・共感の中で—在英日本人移民のナラティブを分析する」(単著)『ナラティブ研究の可能性—語りが写し出す社会』(村田和代氏と共編著) ひつじ書房、2020年12月
(研究助成)
- ・神戸市外国語大学プロジェクトC「社会言語学から文化概念を問い直す—英米系長期在留者へのインタビュー分析を通して」(代表:山口征孝) 研究分担者(2020年度)
[その他の活動]
(管理運営) マルチリンガル教育開発オフィス(英語教育開発チーム)、大学院教務委員、新研究科の入試広報を検討するWG(座長)
(学会活動) 日本語用論学会評議員、日本語用論学会広報委員長、社会言語科学会企画委員会副委員長、社会言語科学会理事、カルチュラル・スタディーズ学会編集委員、メディアとことば研究会世話人、『語用論研究』査読担当、『年報カルチュラル・スタディーズ』査読担当、査読担当委員、『社会言語科学』査読担当
(社会貢献活動) 放送大学面接授業「初級英語」(2020年11月21日、22日)、Bumt Oak Junior School(ケント、英国) Newsround projectに参加協力(2021年3月29日)

村岡 貴子 (MURAOKA Takako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語技術研究 A・B、言語コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 専門日本語 (Japanese for Academic Purposes)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本語教育学、専門日本語教育研究、アカデミック・ライティング教育研究

〈所属学会〉 日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、異文化間教育学会、日本文体論学会

[研究業績]

(論文)

- ・村岡貴子・中島祥子(2021)「日本語非母語話者教員による日本語読解・ライティング教育に関する期待と課題—漢字圏と非漢字圏の各地域における大学教員への調査から—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第25号、pp.85-94
- ・中島祥子・村岡貴子(2021)「ライティング教育に関するピループ調査に向けての基礎的調査—韓国の大学の事例をもとに—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第25号、pp.63-73
(口頭発表・講演・学会報告)
- ・村岡貴子(2020)「研究のデザインから論文完成に至るまでに必要な研究倫理の諸相」(講演)、昭和女子大学研究倫理教育講演会、2020.10.31
- ・村岡貴子(2021)「論文スキーマ形成を促す日本語ライティングの学習と教育—学生・教員の事例をリソースとして—」(講演)、東京大学文学部日本語教育研究会、2021.3.17
(研究助成)
- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号:19H01269 令和元年度～令和4年度「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究(B) 課題番号:20H01270 令和二年度～令和5年度「日本語教師養成・研修におけるライティング教育実践能力の育成—批判的思考を中心に—」(課題番号20H01270) 研究分担者

・国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」プロジェクト構成員

[その他の活動]

〈管理運営〉教育課程委員会委員、ASEAN キャンパス運営 WG メンバー、国際教育交流センター副センター長、グローバル教育運営委員会オブザーバー

〈学会活動〉専門日本語教育学会代表幹事、専門日本語教育学会編集幹事・副編集委員長、日本語教育学会審査・運営協力員

山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉社会言語学研究、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG（国際ゲルマニスト会議）、GAL（応用言語学会）

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

『対抗する言語—日常生活に潜む言語の危うさを暴く』（柿原武史、仲潔、布尾勝一郎との共編）三元社 2021年1月

〈論文〉

・批判的社会言語学の課題—新型コロナウイルスとの共生—『言語文化共同研究プロジェクト 2020 : 批判的社会言語学の探訪』（大阪大学大学院言語文化研究科編）、査読無、29-42 ページ、2019 年

・「怒りの隠蔽—聞き手に怒りをもたらず言語機能について—」柿原武史、仲潔、布尾勝一郎、山下仁編『対抗する言語—日常生活に潜む言語の危うさを暴く』三元社 pp.339-369.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

〈研究助成〉

・「多言語・多文化社会の言説におけるポライトネスの日独対照社会言語学的考察」科学研究費補助金基盤研究 C

[その他の活動]

〈管理運営〉CALL システムワーキング委員、広報社会貢献委員会委員長（2020 年 9 月まで）

〈学会活動〉多言語社会研究会編集委員、多言語化現象研究会運営委員

義永 美央子 (YOSHINAGA Mioko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論 A・B、言語コミュニケーション論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉専門日本語

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育学、応用言語学

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、言語文化教育研究学会、異文化間教育学会、第二言語習得研究会

[研究業績]

〈論文〉

・義永美央子（2020）「日本語教師の資質・能力観の変遷と今日的課題」『社会言語科学』23 巻 1 号、pp. 21-36、

2020年9月、招待・査読有

・義永美央子 (2021) 「溶け合うことばの境界」青木直子・バーデルスキー, M. (編著) 『日本語教育の新しい地図—専門知識を書き換える—』 pp. 25-46、2021年3月、招待

・義永美央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善 (2021) 「日本語学習支援の全学的な展開に向けて—OUマルチリンガルプラザとOU日本語ひろばの実践報告—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25号、pp. 55-61、2021年3月、査読無

・林希和子・陳静怡・李雪・義永美央子 (2021) 「JSL 学習者の日本語実践における ICT ツールの使用状況—モバイル端末の利活用に関する質問紙調査報告—」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25号、pp. 75-83、2021年3月、査読無

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・小河原義朗・黒崎誠・金孝卿・義永美央子 (2020) 「中堅日本語教師研修の内容と方法」2020年度日本語教育学会春季大会パネルセッション、2020年5月、査読有 (コロナウイルス感染拡大により大会は中止となったが、予稿集掲載を以て発表とみなすことが決定された)

・義永美央子 「『ときめき取材記』実践報告」(公財) 国際文化フォーラム・ときめき取材記実践ワークショップ (オンライン開催)、2020年12月、招待

・義永美央子 「ことばの学び方を学ぶ授業のデザイン—学習者オートノミーの育成を目指して—」言語文化教育研究学会第7回年次大会口頭発表 (オンライン開催)、2021年3月7日、査読有

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 19K00708 2019年度~2022年度「大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発」、研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号: 20K00713 2020年度~2023年度「日本語教師養成における実践的コミュニケーション能力育成プログラムの開発」、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉人権問題委員会委員 (全学)、ハラスメント相談室専門アドバイザー (全学)、国際教育交流センター教務委員長、国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長

〈学会活動〉日本語教育学会常任理事、社会言語科学会編集委員、第二言語習得研究会 (JASLA) 大会運営委員会副委員長

〈社会貢献活動〉

・文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」(事業区分: (2) 日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に関する研修)「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修事業」(JCN研修) 専門委員

・大阪府教育庁市町村教育室「令和2年度 識字・日本語学習活動支援 市町村域を越えた取組みプラン」識字・日本語学習の支援者を対象とした豊能ブロック研修講師

渡邊 伸治 (WATANABE Shinji) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉第2外国語 (ドイツ語)、グローバル理解 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学、ダイクシス、視点

〈所属学会〉日本独文学会、ドイツ文法理論研究会、IVG (国際ゲルマニスト会議)

[研究業績]

〈論文〉

・「ニーベルンゲンの歌における komen の用法: 同じ環境で現れる gän との対照の観点から」『言語文化共同

研究プロジェクト 2019 『時空と認知の言語学IX』 pp.31-41, 2020年5月

[その他の活動]

〈管理運営〉 (全学) 図書館委員会委員, 総合図書館運営委員会委員

【言語文化教育論講座】

今尾 康裕 (IMAO Yasuhiro) 准教授

<https://sites.google.com/site/casualconcj/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Project-based), 総合英語 (Academic Skills)

〈学部教育担当科目〉 英語学演習 v

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語テスト, 英語教育, 英語アカデミックライティング, テキスト分析ツール開発

〈所属学会〉 日本言語テスト学会, 全国英語教育学会, 中部地区英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ 「Mac でテキスト分析！」ワークショップ, 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 2020 年度春季研究大会, オンライン, 2020年5月16日

・ 「自然言語処理の成果を汎用コーパスアプリケーションで利用する試み」第5回大阪大学豊中地区研究交流会, 2020年12月15日

「学術分野の違いはコロケーションにどのように反映されるのか」言語と統計 2021, オンライン, 2021年3月20日

〈アプリケーション開発継続〉

- ・ CasualConc 2.1.6 (テキスト分析ツール)
- ・ CasualTranscriber 2.6.5 (文字おこし補助ツール)
- ・ CasualTagger 1.1.3 (テキストタグ付け補助ツール)
- ・ CasualTextextractor 1.0.5 (テキスト処理ツール)
- ・ CasualTreeTagger 1.0.1 (TreeTagger GUI フロントエンド)

〈受賞〉

・ 第15回外国語教育メディア学会 (LET) 教材開発賞「外国語教育メディア学会 教材開発賞 言語研究・教育用アプリケーションの開発とそれらの無償公開」

〈研究助成〉

・ 自然言語処理 CUI アプリケーションの汎用 GUI コーパスツールへの組み込み (科学研究補助金・基盤研究 C, 研究代表者, 2020-2023 年度)

・ Testing and teaching second language pragmatic skills for studying abroad (科学研究補助金・基盤研究 B, 研究分担者, 2020-2024 年度)

・ ディケンズ・レキシコンとデジタル・ヒューマニティーズによる英文学研究基盤創成 (科学研究補助金・基盤研究 B, 研究分担者, 2019-2022 年度)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本言語テスト学会 Web 公開委員委員長, Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事

岩居 弘樹 (IWAI Hiroki) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 応用マルチメディア論, 言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語),

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 ICT を活用した外国語教授法, 教育工学

〈所属学会〉 日本教育工学会, 外国語教育メディア学会, 日本デジタル教科書学会, 日本独文学会, 日本独文学会ドイツ語教育部会, 教育システム情報学会

〔研究業績〕

〈論文〉

・岩居弘樹, 医療系大学での「複言語学習のすすめ」の試み—対面授業とオンライン授業の実践報告と学生の声—, 複言語・多言語教育研究 No.8, 日本外国語教育推進機構, 印刷中, 2021年3月.

・岩居弘樹, 「オンラインをベースにしたこれからの外国語教育—Zoom+αの取り組みとオンライン授業に役立つツールの紹介—」, e-Learning 教育研究 15, e-Learning 教育学会, 印刷中, 2021年3月.

・山岡正和・大前智美・岩居弘樹, 「ZOOM+α相談会」が作る新しい学びの場-「わかる」・「できる」を共有するオンラインワークショップ-, CIEC 春季カンファレンス論文集 Vol.12, CIEC (コンピュータ利用教育協議会), pp.45-50, 2021年3月20日

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・岩居弘樹, Zoom 講習会, 大阪府立大学高等教育推進機構 FD セミナー, 2020年4月15日, オンライン開催, 大阪府立大学高等教育推進機構 FD セミナー.

・岩居弘樹, やりたいことを実現するために「やり方を変える」, v 教育 ICT Expo ビデオ出演, 2020年5月20日, オンラインビデオ公開, ReseMom.

・岩居弘樹, 学生を孤立させないために, FLExICT Expo2020 緊急シンポジウム, 2020年7月26日, オンライン, FLExICT Expo2020 緊急シンポジウム.

・岩居弘樹, オンライン授業カフェ, 神戸学院大学セミナー?, 2020年8月11日~9月2日, オンライン開催, 神戸学院大学.

・広瀬一弥・岩居弘樹・藤木謙士, "小学校小規模学級におけるクラス間交流の試みについて ~同期通信と非同期通信を組み合わせた交流学习の一例~, 日本デジタル教科書学会第9回年次大会, 2020年8月11日, オンライン, 日本デジタル教科書学会.

・岩居弘樹, オンライン授業の解説—リアルタイム方式とオンデマンド方式のコツを伝授します!, ドイツ語教育部会研修会, 2020年8月30日, オンライン開催, 日本独文学会ドイツ語教育部会.

・岩居弘樹, "オンライン授業の今後の展開 ~オンラインと対面を組み合わせたブレンド型学習の可能性~, 藍野大学 FSDS, 2020年8月31日, オンライン開催, 藍野大学.

・岩居弘樹, "「複言語学習のすすめ」の実践と課題 ~ オンライン授業でできたこと、できなかったこと ~", JACTFL オンラインセミナー基調講演, 2020年9月5日, オンライン開催, JACTFL.

・岩居弘樹, とりあえず諦めましょ! ~元の世界には戻れないですから~, 教育 IT ソリューション EXPO 2020 特別講演, 2020年9月18日, 幕張メッセ, EDIX.

・岩居弘樹, オンラインをベースにしたこれからの外国語教育 ~Zoom+αの取り組みと外国語授業実践の紹介~, e-learning 教育学会, 2020年9月20日, オンライン開催, e-learning 教育学会.

・岩居弘樹, オンラインテストの可能性と課題, アクティブラーニング学会研究会, 2020年9月25日, オンライン開催, アクティブラーニング学会.

・岩居弘樹, オンライン授業導入の方案, 在日本ハンゲル学校関西地域協議会 ハンゲル学校運営者研修会, 2020年10月7日, ビデオ収録, 在日本ハンゲル学校関西地域協議会.

・岩居弘樹, 私学中等教育・中学受験研究会セミナー「オンラインテストはこうすれば出来る」, 森上教育研究

所セミナー, 2020年11月10日, オンライン開催, 森上教育研究所.

・岩居弘樹, やりたいことを実現するために「やり方を変える」～ オンラインをベースにしたこれからの外国語教育 ～, 2020年度 JACET 関西支部大会シンポジウム, 2020年11月11日～21日, オンライン開催 (オンデマンド配信), 大学英語教育学会 (JACET) 関西支部.

・岩居弘樹, オンラインをベースにしたこれからの外国語教育, 関西学院大学外国語教育研究センターセミナー, 2020年11月19日, オンライン開催, 関西学院大学外国語教育研究センター.

・岩居弘樹, ICT を活用した外国語教育の可能性, 在日本ハングル学校関西地域協議会 教師研修会, 2020年11月23日, オンライン開催, 在日本ハングル学校関西地域協議会.

・岩居弘樹, 「私のハイブリッド型/オンライン授業@番外編」～ “Zoom + a”の阪大・岩居先生からノウハウを学ぶ～, 京都大学高等教育研究開発推進センターFD, 2020年12月3日, オンライン開催, 京都大学.

・大山牧子・岩居弘樹, 大学教育における教員の経験に着目したリフレクションの変容, 日本教育工学会 2021年春季全国大会, 2021年3月6日, オンライン, 日本教育工学会.

・岩居弘樹, 「言語教育のためのオンライン・ツールボックス-紹介と活用-」, 第3回日本語教育オンライン講演会, 2021年3月6日, 3月20日, オンライン開催, 国際交流基金マドリッド日本文化センター.

・岩居弘樹, Online-Deutschunterricht kommunikativ und aktiv, Online-Seminar vom Goethe-Institut Osaka Kyoto, 2021年3月23日, オンライン開催, Goethe-Institut Osaka Kyoto.

〈研究助成〉

・科研費基盤研究(B), 音声認識とビデオ撮影による自己省察を基礎とした ICT 支援複言語学習モデルの研究, 研究代表者.

大谷 晋也 (OTANI Shinya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語文化教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合日本語、専門日本語、多文化コミュニケーション (日本語)、学問への扉 (多文化コミュニケーションセミナー)、アドヴァンストセミナー、International Communication Seminar (Japanese)

〈学部教育担当科目〉 言語文化教育論 (F)・(G)

〈国際交流科目担当科目〉 日本語・グローバル理解演習 (Japanese and Global Understanding) 500a・600b・600d

[研究活動]

〈研究テーマ〉 多文化・グローバル教育としての異言語 (日本語) 教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース

〈所属学会〉 日本語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『蜻蛉日記』 (平安文学ライブラリー)、日本文学 Web 図書館 (古典ライブラリー)、伊井春樹・伊藤鉄也・大谷晋也・谷口敏夫・中村一夫編、2020年5月、Web 配信

〈論文〉

・「教師研修としての授業観察に対する現職日本語教師集団の目的意識 —日本語学校の常勤および非常勤集団へのインタビュー調査の質的分析—」 (日本語教育学会『日本語教育』176号) 野瀬由季子・大山牧子・大谷晋也、2020.8、査読有

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「世界の言語と日本語」 TAMASA 日本語学習支援ボランティア講座 (みのお TAMASA) 2021.3

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究 (A) 課題番号: 17H00912 平成 29 年度～令和 2 年度「海外における平安文学及び多言語翻訳に関する研究」研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員（専任）、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員、情報化推進会議委員、ODINS 運用部会委員、情報セキュリティ連絡会委員、マチカネにほんご交流会担当教員

〈社会貢献活動〉医療事務連絡会(箕面市等)委員、みのお外国人医療サポートネット運営委員、みのお TAMASA (地域外国人日本語支援活動) 顧問

岡田 悠佑 (OKADA Yusuke) 准教授

<https://sites.google.com/site/liloarise2690/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用言語学研究 A・B、

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)

[研究活動]

〈研究テーマ〉コミュニケーションの「成功」と「失敗」のエスノメソドロジー的会話分析による実証研究

〈所属学会〉American Association for Applied Linguistics、Japan Association for Language Teaching、大学英語教育学会

[研究業績]

〔論文〕

・岡田悠佑 (2020). アクティブ・ラーニング型英語授業における TA の教育的意義の構築：フィードバック場面での「協働」をめぐるスタンス. 言語文化共同研究プロジェクト, 大阪大学大学院言語文化研究科 (編), 応用会話分析研究—制度的会話におけるスタンスの構築と役割—(言語文化研究科共同プロジェクト2019), 1-10

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Okada, Y. (2020, November 16-23). *Microanalysis of team-teaching with TA in EAP*. 46th Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Tsukuba, Japan.

〔研究助成〕

・科研費若手研究「学術目的のための英語コミュニケーション活動への口頭フィードバック手法のモデル化」

・2020 年度放送文化基金助成 (人文社会・文化)「相互行為の放送によるエデュテイメントの達成—NHK 子ども科学電話相談の談話分析」

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター派遣教員

〈学会活動〉Manuscript reviewer (American Association for Applied Linguistics)

〈社会貢献活動〉Manuscript reviewer for *Classroom Discourse* (Taylor & Francis), Manuscript reviewer for *Linguistics and Education* (Elsevier)

小口 一郎 (KOGUCHI Ichiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語表現生態論 A、言語表現生態論 B

〈共通教育担当科目〉総合英語、実践英語

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論 (J)

[研究活動]

〈研究テーマ〉イギリス・ロマン主義、18 世紀思想、比較文学、アカデミックライティング

〈所属学会〉イギリス・ロマン派学会、日本英文学会、日本英文学会中部支部、大阪大学言語文化学会、名古屋大学英文学会、大阪大学英文学会、e-Learning 教育学会、JACET

[研究業績]

〈論文〉

・「「自然」から「環境」へ —— ワーズワスのエコロジー的展開 ——」『ヘンリー・ソー研究論集』第46号(2021年3月)、65-74.

〈Review〉

・大河内 昌 著 『美学イデオロギー — 商業社会における想像力』『イギリス・ロマン派研究』第42号(2021年3月)、59-64. (Sho Okochi, *Aesthetic Ideology: The Politics of Imagination in Commercial Society. Essays in English Romanticism*. No. 42 [2021]: 59-64)

〈招待講演〉

・「NetAcademy Nextによる大規模オンライン授業 —— 現場からの実践報告 ——」株式会社アルク「大学のグローバル化 情報交換セミナー Vol.33」、2021年3月6日、Zoom.

〈研究助成〉

・「観念連合論の身体・物理的展開 —— 近代文学批評理論の学際的再評価」科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)、基盤研究(C)(一般)19K00392

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育開発オフィス長

〈学会活動〉イギリス・ロマン派学会理事、e-Learning教育学会編集委員長、e-Learning教育学会理事

難波 康治 (NAMBA Koji) 准教授

<http://chiba2014.jimdo.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉応用マルチメディア教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉International Communication Seminar (Japanese) 103, International Communication Seminar (Japanese) 503

〈共通教育担当科目〉専門日本語

〈国際交流教育担当科目〉Japanese JA100, Japanese JA500

[研究活動]

〈研究テーマ〉日本語教育におけるIT利用、接触場面における話題マネジメント

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本言語文化学会、e-Learning教育学会

[研究業績]

〈論文〉

・日本語学習支援の全学的な展開に向けて：OU マルチリンガルプラザとOU 日本語ひろばの実践報告 義永美 央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善, 『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』25, 2021年3月 pp.55-61.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Perception of Japanese moraic-nadsal (/N) sounds followed by a vowel: A comparison of Japanese native speakers and Korean learners of Japanese, Heesun Han, Koji Namba, The 179th Meeting of the Acoustical Society of America, 2020年11月, 国際会議 (proceedings なし)

・ 母音間における撥音の知覚判断-子音の閉鎖の度合いについて-, 韓喜善・難波康治, 第161回日本言語学会全国大会予稿集, PDF 1-7, 2020年11月, 会議報告/口頭発表

[その他の活動]

〈管理運営〉

・ 教育情報化ワーキンググループ

・ CALL システムワーキンググループ

〈学会活動〉

- ・ 韓国日本語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉

- ・ 公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員
- ・ 井内奨学財団 評議員

西口 光一 (NISHIGUCHI Koichi) 教授

<https://koichimikaryo.blogspot.jp>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉 総合日本語 JA300、総合日本語 JA100

〈学部教育担当科目〉

[研究活動]

〈研究テーマ〉 第二言語教育学、言語心理学、言語哲学

〈所属学会〉 日本語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 『新次元の日本語教育の理論と企画と実践 — 第二言語教育学と表現活動中心のアプローチ』 くろしお出版
- ・ 『第二言語教育のためのことば学 — 人文・社会科学から読み解く対話論的な言語観』 福村出版

〈論文〉

- ・ 「対話の原型と対話原理の原点 — 「生活のなかの言葉と詩のなかの言葉」を再解釈する—」、多文化社会と留学生交流第25号 pp.1-12

[その他の活動]

〈管理運営〉 評価委員会委員 (国際教育交流センター)

〈学会活動〉 国立大学日本語教育研究協議会代表理事 (2020年5月まで)、日本語教育学会大会委員と査読委員

西田 理恵子 (NISHIDA Rieko) 准教授

<http://www.rienishi.jimdo.com>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究論 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-based)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 応用言語学研究 (動機づけ、情意要因)、英語教育、方法論

〈所属学会〉 大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、International Association for the Psychology of Language Learning (IAPLL)

[研究業績]

〈編著書〉

- ・ Talbot, K., Gruber, M., & Nishida, R. (2021). The Psychological Experience of Integrating Language and Content. *Multilingual Matters*. pp.1-301.

- ・ Talbot, K., Gruber, M., & Nishida, R. (2020). Special Issue: The Psychology of Teaching and Learning Content & Language. *Journal of the Psychology of Language Learning*. pp.1-123.

〈論文〉

- ・ Nishida, R. (2021). A longitudinal study of Japanese tertiary students' motivation, perceived competency and classroom

dynamics in Soft-CLIL. In Talbot, R., Gruber, M. & Nishida, R. (Eds.). *The Psychological Experience of Integrating Language and Content*. Multilingual Matters.

・ Talbot, K., Gruber, M., & Nishida, R. (2020). Introduction to the special issue; The psychology of teaching and learning content and language. *Journal of the psychology of Language Learning*. pp.1-7.

・ 西田理恵子 (2020). 中学校段階における動機づけと学習意欲減退要因に関する研究. 枚方市教育委員会・枚方市中宮中学校 調査報告書. 1-20.

・ 西田理恵子 (2020) CLIL と動機づけ—心理的側面に関する実証研究の総括. 新しい英語教育. 言語文化共同研究プロジェクト 2019. 大阪: 大阪大学.

〈書評・論評・紹介〉

・ 西田理恵子 (2021). *Engaging Language Learners in Contemporary Classrooms*. Mercer, M., Dömyei, Z. Cambridge University Press. (2020). 海外新刊書紹介. 英語教育. 2月号. 大修館書店. (招待執筆)

・ 西田理恵子 (2020). Investigating content and language integrated learning: Insights from Swedish high schools. Sylven, L.K. (2019). *Bristol Multilingual Matters*. 海外新刊書紹介. 英語教育. 8月号. 大修館書店. (招待執筆)

〈口頭発表〉

・ 西田理恵子. CLIL と動機づけ: 日本人英語学習者を対象として. ZOOM 特別招待講演. 東京女子大学. 11月18日. (招待講演)

・ 西田理恵子. 大学英語教育における CLIL: 言語運用力と動機づけに焦点をあてて. 八島ゼミ研究発表会 (ZOOM). 関西大学. 9月19日.

〈研究助成〉

・ 2017年度~2020年度 (代表) 「大学英語学習者を対象とした内容言語統合型学習に関する縦断調査」 科学研究費助成金 基盤研究 B (17H02359).

・ 2020年度~2024年度 (分担) 「Emotional intelligence as a mediator between positive and negative emotions and neuro-cognitive performance among Japanese EFL learners」 基盤研究 C (20K00761), マキュワン麻哉 (代表)

〈調査活動〉

・ 枚方市西宮中学校の協力のもと、中学校1年生から中学校3年生を対象に中学生の動機づけと学習意欲減退要因に関する調査を行っている。

[その他の活動]

〈学会活動〉

・ 西田理恵子 (2021). 小学校英語における異文化理解の視点を取り入れた教材の開発. 発表者: 首藤紗果氏(大阪教育大学) へのコメンテーターとして. 第24回卒論・修論研究発表セミナー 関西英語教育学会. 2021年2月11日.

・ Psychology of Language Learning (PLL4) 国際学会大会査読委員、動機づけ研究会運営委員.

〈社会貢献活動〉

・ 「国際貢献活動」: 科学研究費助成金基盤研究 B 特別講演企画 「The role of context in language learning, teaching and self-development in a multilingual word」 (West Virginia University, Amy Thompson 氏) を招いて ZOOM 特別講演を行った。

・ 「社会貢献活動」 科学研究費助成金基盤研究 B 特別講演企画として、「質的研究ワークショップ」と題して、近畿大学 出口朋美氏を招いて ZOOM ワークショップを行っている。

西出 佳詩子 (NISHIDE Yoshiko) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ、地域言語文化演習 (ドイツ語)、中級ドイツ語

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語学、ドイツ語教育、日本語を母語とするドイツ語学習者ならびにドイツ語母語話者の

テキストの読み、協調学習

〈所属学会〉日本独文学会、ドイツ語教育部会、ドイツ文法理論研究会

[研究業績]

〈研究助成〉

・科学研究費助成事業 基盤研究(C)「専門分野の教育を支える言語変種「学術ドイツ語」の習得：「読み」を焦点に」(研究代表者：林明子) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉新学習指導要領対応検討WG オブザーバー、紀要編集委員会委員

〈社会貢献活動〉「ドイツ語能力向上ワークショップ A1, A2」(Workshop für die Vorbereitung auf die

Goethe-Prüfung A1 und A2) 2020年11月28日 中央大学文学部ドイツ語文学文化専攻主催 講師

日野 信行 (HINO Nobuyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語文化教育論、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉実践英語、総合英語、英語選択、大阪大学の歴史(適塾・緒方洪庵入門)

[研究活動]

〈研究テーマ〉「国際英語」教育

〈所属学会〉International Association for World Englishes、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・日野信行。「言語使用者を母語話者の規範から解放する言語教育：国際英語と国際日本語」青山玲二郎・明石智子・李楚成(編) 梁安玉(監) 『リンガフランカとしての日本語：多言語・多文化共生のために日本語教育を再考する』(pp.149-169). 明石書店, 2020年7月.

・Hino, Nobuyuki. & Oda, Setsuko. (2020). CLIL pedagogy for EIL in higher education. In R. A. Giri, A. Sharma & J. D'Angelo (Eds.) *Functional variations in English: Theoretical considerations and practical challenges* (pp. 295-309). Cham, Switzerland: Springer. 2020年9月.

〈論文〉

・日野信行. "The recurring lives of language pedagogy." 言語文化共同研究プロジェクト2019『新しい時代の英語教育』(pp.1-9). 大阪大学大学院言語文化研究科, 2020年7月.

・Hino, Nobuyuki. English as a lingua franca from an applied linguistics perspective: In the context of Japan. *Russian Journal of Linguistics*, 24(3), 633-648. 2020年8月.

・Hino, Nobuyuki. Japanese English as an Expanding Circle variety: Viewpoints and approaches. *Asian Englishes*, DOI: 10.1080/13488678.2020.1858582, 1-12. 2021年1月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Hino, Nobuyuki. Language education from a post-native-speakerist perspective: The case of English as an international language. QS Subject Focus Summit on Modern Languages and Linguistics: Languages and Migration in a Globalized World, RUDN University, Moscow, Russia (Online). 2020年12月15日. 国際学会基調講演.

・Hino, Nobuyuki. A fundamental dilemma for EIL teachers. Panel Discussion: Re-addressing linguistic and cultural diversity in ELT classrooms, The 55th RELC International Conference, Singapore (Online). 2021年3月15日. 国際学会招待講演.

・Hino, Nobuyuki. Integrating EIL, WE, and ELF paradigms in teaching English for global communication. The 55th RELC International Conference, Singapore (Online). 2021年3月16日. 国際学会招待講演.

〈研究助成〉

・日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 課題番号18K00738「大学における内容言語統合型学習(CLIL)による国際英語(EIL)教授法の開発」2018年度～2022年度(研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 適塾記念センター兼任教員、計画・評価委員会委員 (全学)、言語文化教育論講座代表者 (研究科内)、計画・評価委員会委員 (研究科内)

〈学会活動〉 *World Englishes* (International Association for World Englishes 学会誌, Wiley) Editorial Advisory Board、*Intercultural Communication and Language Education* シリーズ (Springer) Editorial Board、*Routledge Advances in Teaching English as an International Language* シリーズ (Routledge) International Advisory Board、大学英語教育学会賞・学術出版物選考委員会分野長、大学英語教育学会社員、大学英語教育学会 ELF 研究会副代表

〈学内共同研究代表者〉 言語文化共同研究プロジェクト 2019 『新しい時代の英語教育』 代表者、言語文化共同研究プロジェクト 2020 『英語教育におけるグローバリゼーション』 代表者

村上スミス・アンドリュー (MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語表現生態論 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Performance Workshop)

〈国際交流科目担当科目〉 近代日本文学における大阪、近代・現代日本文学

[研究活動]

〈研究テーマ〉 近代・現代日本文学、翻訳、日本の地域言語文化

[研究業績]

〈論文〉

・「他人に対する恐怖—澤村伊智の『ひとんち』における、異なる『言葉』『習慣』そして『形』—」言語文化共同研究プロジェクト 2019 『テキストのレトリック 文化のレトリック—修辞・思想・翻訳—』 (大阪大学言語文化研究科、2020.7)

[その他の活動]

〈管理運営〉 全学国際交流委員会傘下 OUSSEP 運営 WG 委員

〈社会貢献活動〉 池田市バリアフリー推進協議会

リーシーチェン ナンシー (LEE SHZH-CHEN Nancy) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 応用言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英語スピーキング能力発達、スピーキング自己効力感、教員自己効力感、L2 及び L3 習得に関する研究

〈所属学会〉 大学英語教育学会、全国語学教育学会、AAAL (American Association For Applied Linguistics)

[研究業績]

〈論文〉

・ Lee, N. S. C. (2021). The effects of explicit form-focused instruction on English speaking self-efficacy. *OnCUE Journal Special Issue*, vol. 3.

・ Lee, N. S. C., & Ogawa, C. (2021). Online teaching self-efficacy: How English teachers feel during the Covid-19 pandemic. *Indonesian TESOL Journal*, 3(1), 1-17.

・ Lee, N. S. C., & Ogawa, C. (2021). Analyzing Japanese university English teachers' self-efficacy to teach online. In P. Clements, R. Derrah, & P. Ferguson (Eds.), *Communities of teachers & learners*. JALT.

<https://doi.org/10.37546/JALTPCP2020-11>

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Lee, N. S. C. (2020, Sept). The effects of explicit form-focused instruction on English speaking self-efficacy. CUE Conference. Online.
- Lee, N. S. C., & Ogawa, C. (2020, Sept). Analyzing teachers' perceptions for teaching English online. JACET 中部支部大会. Online.
- Lee, N. S. C., & Ogawa, C. (2020, Nov). Survey analysis of teachers' self-efficacy for teaching English online. JACET 関西支部大会. Online.
- Lee, N. S. C., & Ogawa, C. (2020, Nov). Analyzing Japanese university English teachers' self-efficacy to teach online. JALT National Conference. Online.
- [その他の活動]
- 〈学会活動〉 言語文化学会企画編集委員, Language Teaching Research Journal reviewer, JALT National Conference abstract reviewer
- 〈社会貢献活動〉
- 大阪大学 市民講座2020 講師
- 英語部会主催 FD ワークショップ「総合英語 (Academic Skills) 授業実践報告」発表者

【言語情報科学講座】

越智 正男 (OCHI Masao) 教授

<https://sites.google.com/site/masaoochi/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学研究 A

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Content-based English), 総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 格の交替現象, 名詞句の比較統語論

〈所属学会〉 日本言語学会, 日本英語学会, 関西言語学会

[研究業績]

〈共著〉

- 越智正男・猿渡翌加 (2020) 「主格目的語の移動と作用域」 斎藤衛・高橋大厚・瀧田健介・高橋真彦・村杉恵子 (編), 『日本語研究から生成文法理論へ』, 232-249, 開拓社
- 〈論文〉
- Ochi, Masao (2020) "Feature Transfer, Left Periphery, and Case Conversion," *English Linguistics* 36.2, 263-294.
- Ochi, Masao (2020) "Remarks on Nominative-Genitive Conversion and Indeterminate Pronoun Binding," 『言語文化共同プロジェクト 2019 自然言語への理論的アプローチ』, 21-30. 大阪大学言語文化研究科.
- Ochi, Masao (2020) "Nominative-Genitive Conversion in Japanese, Focus, and Improper Movement," *Proceedings of 2019 Western Conference on Formal Linguistics (WECOL2019)*, 78-88, California State University, Fresno.
- Ochi, Masao and Asuka Isono (2021) "Agree, Move, and Nominative Objects in Japanese," *Nanzan Linguistics* 16, 81-106, Center for Linguistics, Nanzan University.
- Maki, Hideki, Wen-Liang Wu, Xiao-Yu Jin, Xiang-Lin Li, Megumi Hasebe, Shigeki Taguchi, Satoshi Oku, Yukiko Ueda, Masao Ochi, Kosuke Nagasue, and Michael Sevier (2020) "The METs 4E3, 4E4, 4E5 and 6: Their Correlations with the English Section of the National Center Test for University Admissions 2018," 『岐阜大学地域科学部研究報告』 46, 1-12.
- Maki, Hideki, Yao Xing, Megumi Hasebe, Shigeki Taguchi, Satoshi Oku, Yukiko Ueda, Masao Ochi, Kosuke Nagasue and Michael Sevier (2020) "The Minimal English Test (MET) 60: Its Correlation with the English Section of the National Center Test for University Admissions 2019," 『岐阜大学地域科学部研究報告』 47, 9-19.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Brian Agbayani and Masao Ochi. Feature splitting lexical insertion in *tough* constructions. 2020 Annual Western Conference on Linguistics, California State University, Fresno (via Zoom), 2020年11月14日.
- ・ Brian Agbayani・越智正男. 「素性分割と語彙挿入」, 2020年度統語論ワークショップ (CSLA #11), 南山大学 (via Zoom), 2021年2月11日.

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」 日本学術振興会 (平成29年4月～令和3年3月)
- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究代表者: 「名詞句の構造と一致現象に関する比較統語論研究」 日本学術振興会 (令和2年4月～)

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際教育交流センター教授会構成員

〈学会活動〉 関西言語学会編集委員会副委員長 (2020年4月～), Journal of East Asian Linguistics Editorial Board (2021年1月～), 国際学術雑誌及び国際学会の応募要旨査読

坂内 千里 (SAKAUCHI Chisato) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語情報科学論 A・B、言語情報科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 中国語初級、中国語中級、中国語中級選択、国際コミュニケーション演習 (中国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国の古い字書 (特に『説文解字』の注釈研究)

〈所属学会〉 日本中国学会、東方学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 『説文解字繫傳』 「通論篇」 考 (一)、大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化研究』47、pp.45-65、2021年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉 大学院教務委員会委員、博士学位受理検討委員会委員、紀要編集委員会委員、安全衛生委員会委員

田畑 智司 (Tabata, Tomoji) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コーパス言語学研究, 言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 総合英語(Content-Based)

〈学部教育担当科目〉 言語情報科学論, 学問への扉 (マチカネゼミ) 「ことばと文化のデータサイエンス: デジタルヒューマニティーズへの扉」

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究, Forensic Analysis of Texts

〈所属学会〉 The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aadH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics

Association (PALA), Dickens Fellowship, Dickens Society, 英語コーパス学会, 情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・田畑 智司 編『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2019』(大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト 2019 成果報告書) 2020 年.

〈論文〉

・田畑 智司「英国 Classic Fiction コーパスの潜在的トピック: LDA によるテキストクラスタリング」『テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2019』(大阪大学大学院言語文化研究科 言語文化共同研究プロジェクト 2019 成果報告書) pp. 47-58, 2020 年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Tomoji Tabata, Language Action Types and the Semantics of Texts: Using Rhetorical Annotation to Classify Texts into Meaningful Groups (招待講演) 2020 Korea-Japan Symposium on Digital Humanities, 29 November 2020, Osaka University [Online platform].

〈研究助成〉

・2018-2021 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「機械学習によるコーパス文体論分析モデルの提示とそれに基づく国際連携基盤の創成」研究代表者

・2019-2021 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「ディケンズ・レキシコンとデジタルヒューマニティーズによる英文学研究基盤創成」研究分担者 (研究代表者: 広島大学・今林 修)

・2019-2021 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究: 身体表現の機能の解明」研究分担者 (研究代表者: 安田女子大学・高口 圭輔)

・2020 年度統計数理研究所共同利用研究 一般研究(2)「機械学習に基づくデジタルヒューマニティーズ研究」(課題番号 2020-ISMCRP-2043)

[その他の活動]

〈学会活動〉 President of the Japanese Association for Digital Humanities; The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) Conference Coordinating Committee; The ADHO Standing Committee on Awards; 英語コーパス学会理事・副会長, 『英語コーパス研究』編集委員

ホドシチュク ボル (HODOSČEK Bor) 准教授

<https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉自然言語処理 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Performance Workshop)

[研究活動]

〈研究テーマ〉自然言語処理、コーパス言語学、日本語作文支援システム

〈所属学会〉言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)

[研究業績]

〈論文〉

・「日本語接続表現の計量的分析に基づく指導法の提案」阿辺川 武, 仁科 喜久子, 八木 豊, ホドシチュク ボル『計量国語学』32 巻 7 号, 387-402, 2020 年 12 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「アカデミックライティング指導のための学術論文コーパスと学習者コーパスの接続表現に見られる特徴分析」ホドシチュク ボル, 阿辺川 武, 仁科 喜久子, 八木 豊, ベケシュ アンドレイ『第 11 回 日本語実用言語学国際会議予稿集』, 105-109, 2020 年 12 月 20 日, 国際会議, オンライン.

・ Visualization of Classical Japanese Poetic Vocabulary (招待講演) 2020 Korea-Japan Symposium on Digital Humanities "Zooming-in and zooming-out: Principles and methods in Digital Humanities", 2020年11月29日, オンライン.

・ A fundamental study of effective visualization and description of longitudinal changes of classical Japanese poetic vocabulary. Hilofumi Yamamoto, Hodošček Bor. *Proceedings of the 10th Conference of the Japanese Association of Digital Humanities, JADH2020 "A New Decade in Digital Scholarship: Microcosms and Hubs"*, 87-89, 2020年11月21日, 国際会議, オンライン.

〈研究助成〉

・ 基盤研究(C)『日本語作文支援システムのための複合機能表現の獲得と用法の分析』(2018-2021) (代表: 阿辺川武) (研究課題番号 18K00703) 研究分担者

・ 基盤研究(C)『歌ことばの効果的可視化技術と通時的言語変化記述に関する基礎研究』(2018-2022) (代表: 山元啓史) (研究課題番号 18K00528) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報システムセキュリティ責任者、部局 CSIRT、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理委員長、部局キャンパスメールサービス管理者

〈学会活動〉 JADH2020 プログラム委員長

〈社会貢献活動〉 大阪大学体育会アイスホッケー部顧問

三藤 博 (MITO Hiroshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 言語構造論、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉 フランス語初級、フランス語中級、地域言語文化演習 (フランス語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 理論言語学、フランス語学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本英語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ 「「真理条件」再考」、『自然言語への理論的アプローチ』、大阪大学言語文化研究科、2020年、pp. 71-78。

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員長

〈学会活動〉 日本フランス語学会編集委員

三宅 真紀 (MIYAKE Maki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 コーパス言語学研究

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (リベラルアーツ&サイエンス)、総合英語 (コンテンツ中心型)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 計算言語学、コーパス言語学、新約聖書学

〈所属学会〉 情報処理学会準会員 (人文科学とコンピュータ研究会)、Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

[研究業績]

〈研究助成〉

・ 科学研究費基盤研究 (C) 「新約聖書デジタル写本における深層学習による写字識別キュレーションシステムの構築」研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉 データビリティフロンティア機構兼任, ネットワーク運用管理委員会委員
〈学会活動〉 JADH 選挙管理委員

宮本 陽一 (MIYAMOTO Yoichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 理論言語学研究 A・B, 言語情報科学特別研究 A・B
〈共通教育担当科目〉 学問への扉 (言語科学入門), 実践英語, 総合英語 (Content-based English)
〈学部教育担当科目〉 言語学概論 A

[研究活動]

〈研究テーマ〉 Disjunctive Phrases の意味構造, N^o-ellipsis の統語メカニズム, Argument Ellipsis の L2・L3 獲得
〈所属学会〉 日本英語学会, 日本言語学会, 関西言語学会

[研究業績]

〈著書、共著〉

・宮本陽一 「短縮回答一名詞句内分配解釈の可否からの示唆を求めて」 斎藤衛, 高橋大厚, 瀧田健介, 高橋真彦, 村杉恵子編『日本語研究から生成文法理論へ』, 開拓社, 212-229, 09/2020.

〈論文〉

- ・Miyamoto, Yoichi. A Note on Distributivity and Argument Ellipsis.『言語文化共同研究プロジェクト2019 自然言語への理論的アプローチ』, 大阪大学言語文化研究科, 69-78, 07/2020.
- ・Otani, Shuki, Andreea C. Nicolae, Mana Asano, Yoichi Miyamoto and Kazuko Yatsushiro. The Relative Scope of Connectives and Negation in Japanese Children. *Proceedings of the 44th Annual Boston University Conference on Language Development*, 479-491, 05/2020.
- ・Miyamoto, Yoichi and Kazumi Yamada. On Null Arguments and Phi-features in Second Language Acquisition. *Journal of Japanese Linguistics* 36(2), 179-223, 11/2020.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・Asano, Mana, Yoichi Miyamoto, Andreea Nicolae, Shuki Otani and Kazuko Yatsushiro. Exclusive Children in Japanese: Evidence from Disjunction in Subject Position. *Experiments in Linguistic Meaning (ELM)* 1, 09/16/2020, オンライン.
- ・Otani, Shuki, Andreea Nicolae, Mana Asano, Yoichi Miyamoto and Kazuko Yatsushiro. When Children Interpret Disjunction Exclusively. *Boston University Conference on Language Development* 45, 11/07/2020, オンライン.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金 (基盤研究 C : 研究代表者) 「生成文法の枠組みにおける量化に関する方言研究」日本学術振興会 (04/2018-03/2021)
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 B : 研究分担者) 「文法性の錯覚から見た第二言語処理の解明と、その英語教育への応用」日本学術振興会 (04/2017-03/2021)
- ・科学研究費補助金 (基盤研究 C : 研究分担者) 「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」日本学術振興会 (04/2017-03/2021)
- ・大阪大学国際共同研究促進プログラム (タイプ A : 研究代表者) 「言語と論理的思考の発達に関する研究」大阪大学 (04/2018-03/2021)

〈共同研究〉

- ・大阪大学国際共同研究促進プログラム (タイプ A) 「言語と論理的思考の発達に関する研究」Leibniz-Zentrum Allgemeine Sprachwissenschaft との国際共同研究実施責任者

[その他の活動]

〈管理運営〉 副研究科長 (04/2019-)

〈学会活動〉 日本言語学会評議員, 関西言語学会編集委員 (04/2020-), ISMBS 2021 International Scientific Committee, Journal of East Asian Linguistics Editorial Board (-12/2020), Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board, その他, 国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読

〈社会貢献活動〉 放送大学大阪学習センター客員教授 (言語学)

山田 彬堯 (YAMADA Akitaka) 講師

<https://www.ay.lang.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 総合英語 (Academic Skills)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 コーパス言語学、統計モデリング、理論言語学 (敬語、発話行為、ムード)

〈所属学会〉 日本言語学会、計量国語学会、日本英語学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Yamada, Akitaka (2020). Do-support and be-support as defective movements. In *Proceedings of the Fifty-fifth Annual Meeting of the Chicago Linguistic Society*. 435-450.

・ Yamada, Akitaka (2020). An OT-driven dynamic pragmatics: high-applatives, subject-honorific markers and imperatives in Japanese. In *Postceedings of the Sixteenth International Workshop of Logic and Engineering of Natural Language Semantics* 16. 354-369.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Ikawa, Shiori and Akitaka Yamada (2020, cancelled). A Hybrid Approach to Honorific Agreement: a Sprouted Valued Feature and an Unvalued Probing Feature. Oral Presentation at the 56th annual meeting of the Chicago Linguistics Society. Chicago, the University of Chicago.

・ Yamada, Akitaka (2020). Honorificity. Guest Lecture at Saarland University.

・ 井川詩織・山田彬堯 (2020). A hybrid approach to honorific agreement: a sprouted valued feature and an unvalued probing feature. 招待講演 (大阪大学)

・ 山田彬堯 (2020). 「競合する尊敬語構文と発話行為の割り当て」 招待講演 (大阪大学)

・ Yamada, Akitaka (2020) Multinomial Mixed-Effects Models and Linguistic Variation: Competitions among Japanese Subject-Honorific Constructions JADH 2020, Online. Nov. 22.

・ Yamada, Akitaka and Lucia Donatelli (2020) A Persona-based Analysis of Politeness in Japanese and Spanish. Online presentation at Logic and Engineering of Natural Language Semantics 17 (LENLS17), Online. Nov. 15.

・ 山田彬堯 (2020). 「日本語の敬語は何か―一体特別なのか」 招待講演 (立命館大学)

・ Kaur, Gurmeet and Akitaka Yamada (2021) Mismatches in honorificity across allocutive languages. Online presentation at LSA 2021 Virtual Annual Meeting, Online, on Jan 8.

・ 山田彬堯 (2021) 「大学、そして大学卒業後にはばたかすためにはどのようなアカデミックスキルが必要なのか」 招待講演 (大阪大学)

・ Yamada, Akitaka (2021) Honorificity: cross-linguistic diversity and commonality. Invited Talk at ZAS workshop.

〈研究助成〉

・ 2020-2021 年度 研究活動スタート支援「敬語表現の選択：コーパスを用いた一般化階層ベイズモデリングの理論言語学への統合」 研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員 (後期)、大阪大学言語文化学会委員 (後期)

山本 武史 (YAMAMOTO Takeshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語情報科学論 A・B

〈学部教育担当科目〉英語選択、総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、英語 3(C) (LL)、英語学演習IIIa・b (豊中開講)、英語学特別演習IIa・b(B)、英語学講義 a・b、英語学Ia・b(F) (上級英語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造 (特に、音節構造と強勢)

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本音韻論学会、日本音声学会、日本言語学会、International Phonetic Association

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Yamamoto, Takeshi (2020) "The accentuation of *-al* adjectives in English: Exceptions to the Latin Stress Rule" 『音声言語の研究』 14 [言語文化共同研究プロジェクト 2019], pp. 70-83, 大阪大学大学院言語文化研究科 (研究助成)
- ・ 日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 「分節素の重さとソノリティーの統合」 (17K02832、2017年度～2020年度) 研究代表者

[その他の活動]

〈管理運営〉マルチリンガル教育センターカリキュラム委員 (外国語学部「総合英語」)、人権問題委員 (キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員) (講座内)

〈学会活動〉日本音声学会音声学普及委員、『京都大学言語学研究』編集委員

〈社会貢献活動〉日本音声学会主催「英語音声学入門講座」実践セッション講師

由本 陽子 (YUMOTO Yoko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉理論言語学研究 (メンタルレキシコン研究)、理論言語学特別研究

〈共通教育担当科目〉総合英語

[研究活動]

〈研究テーマ〉語彙意味論、語形成論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本語文法学会、関西言語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 『名詞をめぐる諸問題：語形成・意味・構文』岸本秀樹氏との共編。304頁，開拓社。2020年10月25日 (論文)
- ・ 「英語の軽動詞構文—主動詞が give と make の場合についての試論—」由本陽子 (編) 『言語文化共同研究プロジェクト 2019 自然言語への理論的アプローチ』 79-88. 大阪大学大学院言語文化研究科。2020年7月
- ・ 「日本語の「名詞+動詞連用形/形容詞」型複合語形成における「形質名詞」の役割」由本陽子・岸本秀樹 (編) 『名詞をめぐる諸問題：語形成・意味・構文』開拓社。47-67. 2020年10月
- ・ 「日本語の複合動詞—統語的複合動詞の意味解釈メカニズムとその二面性—」于康・岸本秀樹 (編) 『日語語法研究 (上)』外語教学与研究出版社。254-344. 2020年12月
- ・ 「総合的複合語形成に関わる制約の再検討」『英文学研究』支部統合号 XIII. 175-182. 2021年1月.
- ・ 「英語の軽動詞構文における項の具現化—giveを主動詞とする場合を中心に—」『言語研究の楽しさと楽しみ』岡部玲子・八島純・窪田悠介・磯野達也 (編) 開拓社。199-209. 2021年3月 (口頭発表)

- ・“Semantic Interpretation of Japanese Verbal Compounds Revisited.” Keynote presentation, The 28th Japanese/Korean Linguistics Conference. 2020年9月18日(招待) (9月7日-20日オンライン開催)
- ・「日英語の形容詞由来複合語形成に関わる制約について」ワークショップ『形容詞が関わる語形成をめぐって』 2021年3月7日(主催: 由本陽子・伊藤たかぬ・杉岡洋子) (オンライン開催)
- 〈研究助成〉
- ・科学研究費基盤研究(B)『語形成から迫る形容詞の意味と項構造』研究代表者
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉男女協働推進オフィス総長補佐
- 〈学会活動〉日本言語学会評議員、日本言語学会編集委員、日本英語学会評議員、関西言語学会副会長、関西言語学会運営委員、関西言語学会大会委員

【言語認知科学講座】

井元 秀剛 (IMOTO Hidetake) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味理論研究、言語認知科学特別研究

〈全学共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語初級選択、フランス語中級、フランス語中級選択、「囲碁」で論理的思考を養おう

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語学、認知言語学

〈所属学会〉日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本認知言語学会、日本英語学会、国際ロマンス語学会、国際認知言語学会

[研究業績]

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者: 「メンタルスペース理論によるアスペクトに関する日英対照研究(平成26年4月~)

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院教務委員会委員長、大阪大学21世紀懐徳堂企画会議委員

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会編集委員

大神 雄一郎 (OGAMI Yuichiro) 助教

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学的観点による日英語の研究

〈所属学会〉日本認知言語学会、日本語用論学会、日本英語学会、関西言語学会、日本言語学会、日本語文法学会

[研究業績]

〈論文〉

・状態・性質の「する」構文の適格性に関する調査報告、大阪大学言語文化共同プロジェクト2019、pp.11-20

〈研究助成〉

・日本学術振興会 研究活動スタート支援

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語文化専攻長

〈学会活動〉日本認知言語学会全国大会実行委員、日本語用論学会メタファー研究会事務局、大阪大学言語文化学会事務局

大森 文子 (OMORI Ayako) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・「*The Lion's Parliament* における寓意のメタファー」『レトリックとメディア』（言語文化共同研究プロジェクト 2019）』大森文子編、pp.21-32、2020年7月

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C) (2016-2020) 「英語メタファーの認知詩学」 (研究代表者)

・科学研究費補助金基盤研究(C) (2020-2024) 「英語メタファーの認知詩学 II」 (研究代表者)

・科学研究費補助金基盤研究(C) (2019-2022) 「英詩メタファーの構造と歴史 II」 (研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉設備・施設マネジメント委員会委員

〈学会活動〉日本認知言語学会編集委員、言語文化レトリック研究会 (言語文化研究科内研究会) 主催

小薬 哲哉 (KOGUSURI Tetsuya) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)、英語選択、学問への扉 (マチカネゼミ)

〈学部教育担当科目〉言語認知科学論 (A)(B) (豊中開講)

[研究活動]

〈研究テーマ〉語彙意味論・構文文法理論・並列構造理論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語文法学会、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

[研究業績]

〈共著〉

・小薬哲哉 (2020) 「構文に生起する派生名詞と受動化」『名詞をめぐる諸問題—語形成・意味・構文—』, 193-214, 東京: 開拓社

〈論文〉

・小薬哲哉 (2020) 「「自ら」の2つの強意用法とその形式的・意味的特徴について」『言語文化共同研究プロジェクト 2019—認知・機能言語学研究 V』, 21-30, 学術論文

〈研究助成〉

・文部科学省科学研究費若手研究 (B) (研究代表者)『再帰構文における他動性と動作主性に関する対照研究』(No. 17K13446) (平成29年度～令和2年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員、人権問題委員会委員、英語カリキュラム委員 (マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員)、安全衛生委員会委員

〈学会活動〉日本英語学会事務局、日本認知言語学会全国大会実行委員

高橋 克欣 (TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉言語認知科学論 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語中級

〈学部教育担当科目〉フランス語1 (A・B)、フランス語1 1、フランス語学講義 a・b、フランス文化演習 IVa・b、フランス語科教育法II

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語学 (時制論)、フランス語教育

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

[研究業績]

[その他の活動]

〈管理運営〉研究企画推進委員会委員、国際交流委員会委員、カリキュラム委員会・カリキュラム小委員会委員、マルチメディア外国語教育委員会委員長、大阪大学言語文化学会副委員長

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員・編集委員、日本フランス語学会編集委員、日本フランス語教育学会会計担当理事

田村 幸誠 (TAMURA Yukishige) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味論研究 A、認知意味論研究 B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Liberal Arts & Science)

〈学部教育担当科目〉英語2、英語学概論 a、英語学概論 b、英語学演習 Ia、英語学演習 Ib、英語学特別演習 IIIa、英語学特別演習 IIIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉ユピック・エスキモー語と英語の類型論的対照研究

〈所属学会〉国際類型論学会、日本言語学会、アメリカ言語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

[研究業績]

〈論文〉

・田村幸誠 (2020) 「地形調和仮説からみた中央アラスカユピック語の指示詞の使用に関する一考察」『時空と認知の言語学 IX (言語文化共同研究プロジェクト 2019)』 pp. 11-20.

・田村幸誠 (2020) 「中央アラスカ・ユピック語からみた体言化理論」『体言化理論と言語分析』 pp. 353-398.

・田村幸誠 (2021) 「日本人英語学習者に観察される英語の /r/ の調音に関する一考察」(研究ノート) 『英米研究 45号』 pp. 91-101.

〈研究助成〉

科研費：18K00534 (名詞化と補文化に関する通言語的研究ーユピック・エスキモー語を中心にー)

早瀬 尚子 (HAYASE Naoko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知言語学研究・認知言語学特別研究

〈学部教育担当科目〉英語1 (Reading) 英語3 (LL)・英語13 (総合英語)・英語学演習・英語学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉認知言語学的枠組みによる構文研究、言語の主観性、視点、日英比較

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、国際認知言語学会 (International Cognitive

Linguistics Association)

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・坪井栄治郎・早瀬尚子（共著）(2020)『認知文法・構文文法』開拓社 (pp.122-256)

〈論文〉

・早瀬尚子（2020）「「とき」の周縁的な使用について一話題化への途上」『言語文化共同研究プロジェクト 2019 認知・機能言語学研究Ⅴ』51-60.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・早瀬尚子（2020）「構文文法の基本的な考え方について問い直す：発表者三氏へのコメント」日本認知言語学会 ワークショップ（於 Zoom：2020年9月5日）

〈研究助成〉

・文部科学省 科学研究費基盤研究 (C)「主観的事態把握から対人関係的機能の発達の多様性に関する多言語研究」（研究代表者：No.18K00647）（平成30年度～令和3年度）

[その他の活動]

〈管理運営〉学生支援委員、広報・社会貢献検討委員

〈学会活動〉理事・学会誌副編集委員長（日本認知言語学会）、運営委員（関西言語学会）

渡辺 秀樹 (WATANABE Hideki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究、言語認知科学特別研究

〈共通教育担当科目〉総合英語

〈学部教育担当科目〉英語学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史、英語メタファー表現研究、英訳聖書訳語研究、時事英語リーディング方法論開発

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本中世英語英文学会、国際英語正教授連盟 (IAUPE)

[研究業績]

〈論文〉

・「The Lion's Parliament of the Beasts in Debate (London 1808) 19世紀初頭 英国動物寓意詩 「獅子王の議会」テキスト校訂・日本語訳・メタファー論考」『レトリックとメディア 言語文化共同研究プロジェクト2019』
・「Shakespeare's Sonnets に見える繰り返しのレトリック」『感情・感覚のレトリック 言語文化共同研究プロジェクト2019』2021年5月印刷予定

・“Syntactic and Narrative Significance of the Three Instances of *bæt wæs god cyning* in *Beowulf* Reconsidered.” In *Medieval English Syntax: Studies in Honor of Michiko Ogura* (Peter Lang) to appear.

〈研究助成〉

・2020年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「英詩メタファーの構造と歴史Ⅱ」（研究代表者）

・2020年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「英語メタファーの認知詩学Ⅱ」（研究分担者）

[その他の活動]

〈学会活動〉日本中世英語英文学会評議員